

2005年度早稲田大学史学会大会ご案内

拝啓 時下ますますご清栄のことと存じます。さて、このたび下記のごとく
2005年度早稲田大学史学会大会を開催いたしますので、ぜひご出席いた
だきますようご案内申し上げます。
敬 具

早稲田大学史学会

会 長 小 倉 欣 一

日 時 10月15日(土) 午前10時より

会 場 早稲田大学文学部校舎

◎研究発表(10時より12時30分まで) 文学部校舎 各会議室

日本史部会 33号館2階第1会議室

- | | | |
|------------------------------|--------------------|---------------------------|
| ①律令制下伝馬制の運用について | 本学部学生 | PHAM・LE・HUY
(ファム・レ・フイ) |
| ②国造系譜の成立と展開 ―『紀伊国造次第』を中心として― | 大学院学生 | 鈴木 正 信 |
| ③近世の村の鉄砲 ―武器から「道具」へ― | 大学院学生 | 中 西 崇 |
| ④吉野作造における明治文化研究 | 古川市教育委員会生涯学習課主任研究員 | 田 沢 晴 子 |

東洋史部会 39号館5階第5会議室

- | | | |
|--|-------|---------|
| ①後漢時代の尚書台と三公
―宦官の勢力基盤と徴召の運用をめぐる― | 大学院学生 | 渡 邊 将 智 |
| ②北魏洛陽遷都後の非漢族統治について | 大学院学生 | 吉 田 愛 |
| ③南宋総領所体制下の長江経済 ―湖広総領所と四川の関係から― | 大学院学生 | 樋 口 能 成 |
| ④辛亥革命後における内モンゴルの二元的政治構造
―ジャロド左旗の二ザサク制の事例を中心として― | 大学院学生 | 橘 誠 |

西洋史部会 34号館2階第3会議室

- | | | |
|---|--------|---------|
| ①1860年代における、スロヴァキア・ネーション形成をめぐる諸言説とその理念
―領域、ネットワーク、教育・啓蒙― | 大学院学生 | 井 出 匠 |
| ②バイエルン王国とクリミア戦争 | 大学院学生 | 時 野 谷 亮 |
| ③ハンムラビ占領下の「ラルサ地域」における保有地の管理と経営 | 元大学院学生 | 中 山 八 歩 |

考古学部会 39号館6階第7会議室

- | | | |
|---|-------|---------|
| ①古墳時代中期の埴輪生産組織 | 大学院学生 | 小 野 本 敦 |
| ②東国地域の家形石棺をめぐる | 大学院学生 | 山本ジェームズ |
| ③前期青銅器時代Ⅰ・Ⅱ期におけるエジプトーパレスティナ間関係の変遷
―石製品の検討を中心に― | 大学院学生 | 山 藤 正 敏 |

◎総 会 (13時30分より14時まで) 文学部校舎33号館2階第2会議室

◎シンポジウム (14時より17時30分まで) 文学部校舎33号館2階第1会議室

テーマ「今なぜ自由民権か―東アジアの近代と市民社会の形成―」(右に詳細)

◎懇親会 (18時30分より20時30分まで)

会 場 高田牧舎(右に略図)

会 費 4,000円(院生3,000円、学生2,000円)

今なぜ自由民権か —東アジアの近代と市民社会の形成—

今から20年前、「自由民権百年運動」と呼ばれる研究・顕彰運動が、全国規模で展開しました。これは、自由と民権を求めて明治藩閥政府に立ち向かった人びとの思想や運動の歴史的意義を、100年を経た時点で改めて考えようとしたもので、その担い手となったのは、研究者・教育者、市民や学生、自由民権家の子孫など多様な人びとでした。1984年、早稲田大学を会場にして開かれた全国集会には多くの参加者があり、文学部に設けられた11の分科会の会場はいずれも超満員でした。本年11月12・13日には、その後に蓄積された研究や顕彰の歩みを省み、自由民権というテーマを次代に伝えるためのシンポジウム「自由民権120年 東京フォーラム：自由民権研究と顕彰を問う」が、早稲田大学国際会議場で開かれます。本学会では、これに連動する形でシンポジウムをもつことにし、テーマを表題のように設定しました。近年、自由民権運動の研究に関しては、国家との共通性・同質性を説く見方、メディアを重視する文化史的認識、民衆運動の独自性・自立性を強調する見解など、これまでの視座・評価を大きく揺り動かす状況が生まれています。このような研究動向に鑑み、また今後議論を広げ深めることを意図し、新しい視覚から自由民権について考えてみることにしました。日本史学からは、歴史的体験としての自由民権運動がその後どのように国民に認識されていたかについて、西洋史学からは、比較史的見地からドイツで起こった結社の活動様態について、それぞれ検証されるでしょう。そして両報告を踏まえ、自由の概念や実態、中国における様態、東アジアの連帯・民主主義の可能性などについてコメントされるでしょう。すぐれてアクチュアルな課題を掲げた本シンポジウムへ、多くの方が積極的に参加され、活発な議論をして下さることを期待しています。

(安在 邦夫)

日 時：2005年10月15日（土）14時より17時30分まで

場 所：文学部校舎33号館2階第1会議室

総合司会

李 成市（東洋史学専修）

趣旨説明

安在 邦夫（日本史学専修）

報 告 「吉野作造と柳田国男」

鶴見 太郎（日本史学専修）

「近代ドイツにおける「市民化」と「国民化」

—明治期日本の自由民権運動との比較から—」小原 淳（西洋史学専修）

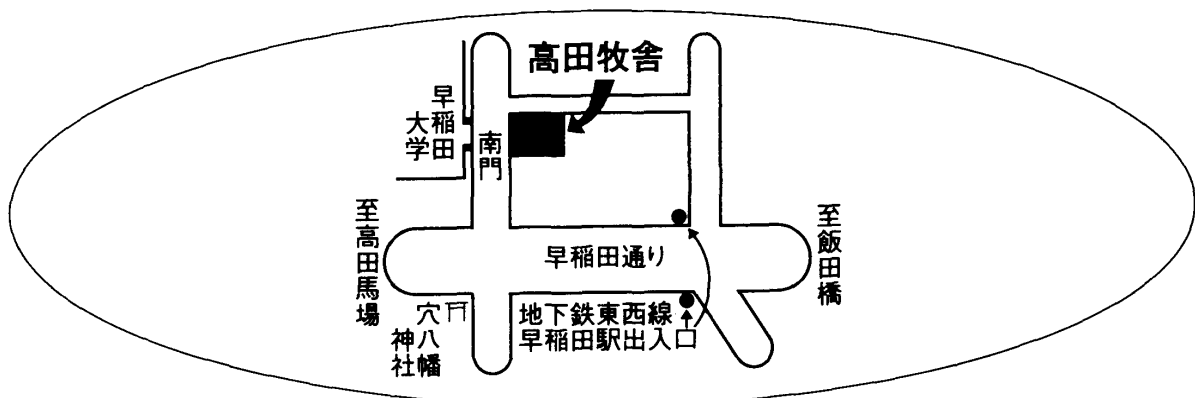
コメント

大日方純夫（日本史学専修）

近藤 一成（東洋史学専修）

松園 伸（西洋史学専修）

討 論



(懇親会会場略図)